熊本大学麻酔科専門医研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

このプログラムは、熊本大学と熊本県内の主要な病院・小倉記念病院・和歌山県立医科大学が協力して行う研修プログラムである。麻酔科医としての研修を積むと同時に、熊本県内の地域医療に貢献できる麻酔科専門医の養成を目標としている。

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち６ヶ月は，専門研修基幹施設で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．

- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B），ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C），集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する．
- 地域医療の維持のため，最低でも３ヶ月以上は地域医療支援病院である水俣市立総合医療センター、天草地域医療センター、人吉医療センターで研修を行うように努める．

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C(ペイン)	D（集中治療）
初年度前期	本院	本院	本院	本院
初年度後期	本院	本院	本院	本院
２年度前期	済生会熊本病院	熊本赤十字病院	本院	熊本労災病院
２年度後期	済生会熊本病院	熊本赤十字病院	本院（ペイン）	熊本労災病院
３年度前期	熊本医療センター	熊本地域医療センター	本院（ペイン）	熊本医療センター
３年度後期	熊本医療センター	本院	くまもと森都総合病院	本院（集中治療）
４年度前期	本院（ペインまたは集中治療）	本院(ペインまたは集中治療）	くまもと森都総合病院	本院（集中治療）
４年度後期	本院（ペインまたは集中治療）	本院(ペインまたは集中治療）	本院	本院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み

午後	手術室	術前外来	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：24,641症例

本研修プログラム全体における総指導医数：38.6人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	643症例
帝王切開術の麻酔	984症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	796症例
胸部外科手術の麻酔	923 症例
脳神経外科手術の麻酔	783症例

① 専門研修基幹施設

熊本大学医学部附属病院（以下，熊本大学病院）

研修プログラム統括責任者：山本達郎

専門研修指導医：山本達郎（麻酔，ペインクリニック）

杉田道子（麻酔，ペインクリニック）

田代雅文（麻酔，ペインクリニック）

生田義浩（麻酔）

鷺島克之（麻酔、集中治療）

成松紀子（麻酔、集中治療）

吉武　淳（麻酔、緩和医療）

棚平千代子（麻酔）

洲崎祥子（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

江嶋正志（麻酔、集中治療）

隈元泰輔（麻酔）

専門医：樋口拓志（麻酔）

小林加織（麻酔）

東野友里（麻酔）

矢津田麻里（麻酔）

林田裕美（麻酔）

認定病院番号：34

特徴：ペイン，集中治療のローテーション可能

麻酔科管理症例数 5,689症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	162症例
帝王切開術の麻酔	130症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	126 症例
胸部外科手術の麻酔	290 症例
脳神経外科手術の麻酔	268症例

② 専門研修連携施設A

くまもと森都総合病院

研修実施責任者：大津哲郎

専門研修指導医：大津哲郎（麻酔，ペインクリニック）

橋口清明（緩和ケア）

田口裕之（麻酔）

認定病院番号：1285

特徴：ペインのローテーション可能

麻酔科管理症例数 1072症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	12症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

熊本市医師会熊本地域医療センター（以下，熊本地域医療センター）

研修実施責任者：髙群博之

専門研修指導医：髙群博之（麻酔）

柳 文治（麻酔）

安部英治（緩和ケア）

認定病院番号：400

特徴：：緩和医療の研修、地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 864症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	49症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	34 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

国立病院機構熊本再春荘病院（以下，再春荘病院）

研修実施責任者：柴田義浩

専門研修指導医：柴田義浩（麻酔）

大友　純（麻酔）

認定病院番号：1073

特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 900症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	4症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	58 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

済生会熊本病院（以下，済生会病院）

研修実施責任者：原武義和

専門研修指導医：原武義和（麻酔）

國徳裕二（麻酔）

坂田羊一朗（麻酔）

加藤清彦（麻酔）

藤田ミキ（麻酔）

中原依里子（麻酔）

認定病院番号：469
特徴：地域拠点病院

麻酔科管理症例数 4,391症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	150 症例
胸部外科手術の麻酔	150 症例
脳神経外科手術の麻酔	150症例

医療法人愛育会　福田病院（以下，福田病院）

研修実施責任者：高木美砂子
専門研修指導医：高木美砂子（麻酔）
岩政浩子（麻酔）
認定病院番号：1406
特徴：産科麻酔の拠点病院の一つ

麻酔科管理症例数 1,209症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	19症例
帝王切開術の麻酔	500 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

国保水俣市立総合医療センター（以下，水俣市立病院）

研修実施責任者：田尻　晃彦
専門研修指導医：田尻　晃彦（麻酔）
馬場　知子（麻酔）
認定病院番号：1364
特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 961症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	9症例
帝王切開術の麻酔	20 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	2 症例
胸部外科手術の麻酔	17 症例
脳神経外科手術の麻酔	8症例

聖粒会慈恵病院（以下，慈恵病院）

研修実施責任者：志茂田　治

専門研修指導医：志茂田　治（麻酔）

認定病院番号：1508

特徴：産科麻酔の拠点病院の一つ

麻酔科管理症例数 363症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	122 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

国立病院機構熊本医療センター（以下，熊本医療センター）

研修実施責任者：瀧　賢一郎

専門研修指導医：瀧　賢一郎（麻酔）

古庄千代（麻酔）

宮崎直樹（麻酔）

小松修治（麻酔）

専門医：松川豪策（麻酔）

認定病院番号：267

特徴：地域拠点病院

麻酔科管理症例数 3,758症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	5症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

熊本総合病院

研修実施責任者：谷本宏成

専門研修指導医：谷本宏成（麻酔）

認定病院番号：118

特徴：地域の基幹病院

麻酔科管理症例数 1,743症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	17 症例
胸部外科手術の麻酔	5 症例
脳神経外科手術の麻酔	37症例

熊本市民病院（以下，市民病院）

研修実施責任者：田代雅文

専門研修指導医：田代雅文（麻酔・ペイン）

樋口　拓志（麻酔）

小寺　厚志（麻酔・集中治療）

赤坂　威史（麻酔・救急）

専門医：矢津田　麻里（麻酔）

梶原　那美恵（麻酔）

井上　由季子（麻酔）

春田　佳代子（麻酔）

橋口　久美子（麻酔）

認定病院番号：162

特徴：当院の特徴として周産期医療があり、帝王切開術の麻酔や小児麻酔を多く行っています。県内で唯一、小児心臓外科手術の麻酔も行っています。

麻酔科管理症例数 1222症例

経験必要症例	症例数
小児（6歳未満）の麻酔	94症例
帝王切開術の麻酔	49症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	48 症例
胸部外科手術の麻酔	5 症例
脳神経外科手術の麻酔	13症例

③ 専門研修連携施設B

熊本労災病院（以下，労災病院）

研修実施責任者：橋本正博

専門研修指導医（申請中）：橋本正博（麻酔）

認定病院番号：130

特徴：地域医療拠点病院

麻酔科管理症例数 2,613症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	36症例
帝王切開術の麻酔	61 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	42 症例
胸部外科手術の麻酔	39 症例
脳神経外科手術の麻酔	6症例

熊本赤十字病院

研修実施責任者：定永道明

専門研修指導医：定永道明（麻酔、ペインクリニック）

佐土原友弘（麻酔）

古閑　匡（麻酔）

井上克一（麻酔）

専門医：棚平 大（麻酔）

大塚賀子（麻酔）

樋口直子（麻酔）

山部典久（麻酔）

認定病院番号：166

特徴：地域拠点病院

麻酔科管理症例数 4,888症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	292症例
帝王切開術の麻酔	141 症例
心臓血管手術の麻酔	268 症例

（胸部大動脈手術を含む）	
胸部外科手術の麻酔	83 症例
脳神経外科手術の麻酔	184症例

熊本中央病院

研修実施責任者：前川　謙悟

専門研修指導医：前川　謙悟（麻酔）

専門医：徳永祐希子（麻酔）

認定病院番号：192

特徴：地域の拠点病院

麻酔科管理症例数 2,405症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	24症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	106症例
胸部外科手術の麻酔	225 症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

天草郡市医師会立天草地域医療センター（以下，天草地域医療センター）

研修実施責任者：増田和之

専門研修指導医：増田和之（麻酔）

専門医：寺崎秀平（麻酔）

認定病院番号：1597

特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 1084症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	6症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	12 症例

脳神経外科手術の麻酔	65症例

小倉記念病院

研修実施責任者：瀬尾勝弘

専門研修指導医：瀬尾勝弘（麻酔）

中島　研（麻酔）

宮脇　宏（麻酔）

角本眞一（麻酔）

近藤　香（麻酔）

松田憲昌（麻酔）

栗林純也（麻酔）

専門医：溝部圭輔

鴛渕るみ

松本　恵

馬場麻理子

平野芳枝

認定病院番号：52

特徴：

小倉記念病院は、成人患者のみに対応していますが、心臓手術症例、脳神経外科手術症例に特徴があります。循環器合併非心臓手術の麻酔症例も多く経験できます。集中治療にも力を入れています。

麻酔科管理症例数 2,702症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

和歌山県立医科大学附属病院

研修実施責任者：川股知之

専門研修指導医：川股知之（麻酔）

水本一弘（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
木本吉紀（麻酔）
栗山俊之（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
山崎亮典（麻酔、区域麻酔）
直川里香（麻酔、心臓血管外科麻酔）
中田亮子（麻酔、ペインクリニック）

専門医：栗山亘代（麻酔）
樋口美沙子（麻酔）
大岩三智子（麻酔）
池本進一郎（麻酔）
谷奥匡（麻酔）
平井亜葵（麻酔）
江尻加名子（麻酔、心臓血管外科麻酔）
黒崎弘倫（麻酔）
吉田朱里（麻酔、心臓血管外科麻酔）

認定病院番号：40

特徴：ペインクリニック、緩和医療のローテーション可能

麻酔科管理症例数 5,612症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	10症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

5. <u>募集定員</u>

15名

（＊募集定員は，4年間の経験必要症例数が賄える人数とする．複数のプログラムに入っている施設は，各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2017年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，熊本大学麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

熊本大学医学部附属病院　麻酔科 教授　山本達郎
熊本県熊本市中央区本荘1-1-1
TEL 096-373-5275
E-mail　yamyam@kumamoto-u.ac.jp
Website　www.//kuma-ma.ac.jp

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての熊本労災病院，天草地域医療センター，など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

15.<u>専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）</u>

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．